めだかの学校だより

平成28年8月1日
第93号
学舎：周智郡森町一宮
「一宮総合センター」
事務局：静岡県磐田市
家田529-20
TEL:0539-62-6691

校長訓話

第九十三回　校長　水村　春江

追憶の彼方に消えぬ間に

故あって昨年末より別宅暮らし始まる。息をひそめるような緊張の日々に心身の疲労感。医療の本や資料が最大の関心事となっている。その最中に校長指名を頂いた。原稿用紙を前に時間ばかりが過ぎていく。焦燥感。思いあぐねて古いアルバムをひっぱり出してみたら、そこには感激に包まれながら悪銭苦闘していた、あの頃が溢れていた。

平成5年。「めだかの学校」開校の年に浜松クラブの会報に書いた一文です。日常に流されている現在の自分への戒めとともに紹介させていただきます。

「私の脇役人生」

ああ、守らせ給え!!神さま佛さま、天の一角におわすはずの父よ母よ―。

営々と造り営む殿堂に、われも黄金の鏃ひとつ打つ。

「皆さま　ようこそお運びを頂きまして誠にありがとうございます。私は本式典の…」ピタリ静まったホテルの広々とした空間に、わがものとも思えぬ声が流れてゆく。

思えばこの半年余り静岡大学工学部キャンパスの一室で教授会・後援会役員の方々との数えきれぬ議論の中から生まれたこの一冊の台本。今日はその七十年の歴史と意義を祝う特別の日。そして未来への架け橋とする大切な一日、なのである。

どうぞあなたの娘につつがなくこの大役を果たさせ給えー。

開式につづく工学部長式辞、学長挨拶、来賓祝辞の数々。会場は予想を超える参加者で溢れそう。皆さん晴れやかで和やかである。拍手の音が場内に響きわたる。ウン、いけそう。緊張の中にフッと頬がゆるむ。

式典に続いて書間輝夫氏（浜松ホトニクス社長・故人）の記念講演。テレビ発祥の地で原点となるお話。その最中にもステージ裏での最終チェックと打ち合わせ。なにしろ司会者兼プロデューサーは忙しいのだ。浜松松涛会（芸妓さん全員）の三味線オーケストラ「水の生態」。ヤマハエレクトーン最高機種2台でのデュエット演奏。そしてやっとお許しの出た、エアロビクスショー。本当はハイレグで若さの魅力をいっぱいふりまいて貰いたかったのだけれど。でも皆さんグラス片手に熱い視線をステージに注いでいる。

フィナーレは校歌の大合唱。かつての紅顔の美少年達が肩を組んで、大きな声で。ステージ上には役員さん達の誇らし気な笑顔笑顔。七十年を一瞬に包みこみ、ひとつに溶け合った今日の一日でした。

大成功なら皆様のお陰さま。やっぱりお仕事、やめられない。私の脇役人生。

十月十八日十八時三十分　幕。

ひとつひとつの出合いに心ときめかせながら、花よ開けと念じながら、有難いご縁に活かされている私です。

（一九九三年　浜松クラブより）

「浜名湖花博会長代理
吉岡徹朗氏」

「竜ヶ岩洞発掘者の
戸田貞雄氏（故人）と」

めだかの学校伝言板

――第93回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

開校日／平成28年9月2日（金）6：20PMより――

校　長／水村春江
教　頭／高田正人
用務員／中村明男
給食係／大久保陽・村木謙弐・尾上美智子・石野省三
松本芳廣・山中幸子・今村純子・中村やす代
牧野久子・大谷香代子・渡辺三ツ子(チーフ)
※お手伝いできる人はぜひ早めにお出かけを！

＜学舎＞静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」
TEL：0538-89-7730(開校日のみ)

受　付／大場敬子・大橋町代・池田悦子・斉藤昭（後見人）

24期通年テーマ：『素朴ともみえるひとつひとつの行動が未来へと広がっていく』

今回のテーマ：≪地域に生きて　地域に生かされる≫

＜時間割＞

●24期　期初　特別授業（1時限60分）
社会「地域にあって地域を生かす花井流まちおこし」
花井孝　先生（静岡市清水区）

●給食の時間～お月見ご膳～
（究極の“こしひかり”と栗ごはん）

9：30閉校

めだかたち

■全国まちづくり交流会in松阪へ行ってきました

第92回めだかの学校が終わったばかりの6月4日（土）～5日（日）の両日、三重県松阪市で行われた全国まちづくり交流会へ行ってきました。メンバーは、バラさん、奥宮さん、中村さん、池谷さん、今村さん、山中さん、そして私の7人。溝口さんと水島さんは別部隊で松阪入り、全国からは北はオホーツク寒気団から南は与論、沖縄まで、お馴染みの足助や阿波勝浦など約250人が集まりました。

松阪市はお伊勢さんのちょっと手前で有名なのはもちろん「松阪牛」、また本居宣長の町でもあり、もともとは紀伊藩の飛び地でした。

交流会場は、市街から20kmほど山あいの飯南産業文化センターで、宿泊先はさらに1時間をも山間地に入った奈良県境の飯高町・山林舎という場所でした。

交流会は、まずは市長からあいさつをいただいた後、基調講演は百五銀行地域創生担当の「岸川政之」さんがあの「高校生レストラン」について話されました。三重県は先日サミットが行われたばかりで、そのサミットで活躍したのが「高校生レストラン」の生徒さんたちです。この仕掛け人が当時多気町役場職員であったこの「岸川政之」さんです。県立高校であった相可高校の生徒さんとの出合いから「子どもたちのためのお店を作ろうと決意、「まごの店」が実現、その後「高校生レストラン」へと繋がります。当時見向きもしなかった「食物調理科」は今では1．6倍の県内有数の難関になっているのだそうです。

分科会の後、会場を移し、大交流会が行われましたが、今回の料理はこの高校生レストランの生徒さんの手による料理でした。味も量も驚くばかり、そして何よりきびきびとした若者たちの姿に感動し、地域の宝を見つけたように思いました。

どこの地域も高齢化ばかりが目立っていますが、宝探しの参考となる事例でした。

次回は富山市で9月7日（金）～9日（日）の開催予定です。（村松達雄メダカ）

■3、5町歩の市民農園の草刈りとジャンボニンニクの収穫

いや～暑い～広い～。6月18日袋井市湊の木船光章さん管理の市民農園の草刈りとジャンボニンニクの収穫を、「かがり火」発行人の菅原歓一メダカから協力依頼があり、鈴木正士、伊藤英雄、榊原幸雄、松本芳廣、鈴木武史、服部守孝、尾上美智子のメダカ生と鈴木厚正さん（千葉）ら「猫の手クラブ」のメンバーら14人と、木船さん、菅原メダカ、ブラジル日系三世の田中さん、総勢17人で行いました。

朝9時に袋井湊の木船さんの倉庫兼宿舎に集合して車で5分のところの畑に行く。服部、松本、武史の3メダカは直接に現場に行き、もう草刈りを始めていた。とにかく全員一ヵ所に集まってもらって場所を説明。北は道路の向こうの竹やぶまで、東はあそこの倉庫小屋まで、南は松林まで、西はあの側溝までと広い。ジャンボニンニクは草むらの中にねぎぼうずのような紫色の花をつけて散立している。とにかく安全を期して散らばって草刈りを始める。

うなりをあげている14台の草刈り機、そんな情景をみた菅原歓一メダカ。感動して「あんなきつい肉体労働を無報酬で引き受けてくれる人たちってどんな精神の持ち主なんでしょう。紅一点の尾上美智子さんが、ご自分の背丈の倍もある雑草を薙ぎ倒していく様は普段の雰囲気からかけ離れているので目を見張りました」だって。

午後1時から、菅原メダカと榊原メダカはジャンボニンニクの収穫。はじめスコップでやっていたが、鋤に変える。こちらも又大変な作業。3時の休憩の時に山中幸子メダカが応援に来たので収穫の方はお願いして、私は草刈りに回る。4時半、鈴木武史メダカが軽トラに収穫したジャンボニンニクを持って来たので、草刈り作業も終える。草を刈り終えた農園がすっきりと広～く感じるのは気持ちのいいものです。お疲れ様でした。お土産は木船さんの9年熟成味噌とジャンボニンニクでした。いい汗かきました。（バラメダカ）

■県下最大の半夏生大群生地公開

一昨年から森町の鍛冶島地区に自生している半夏生を活かして、村おこしをしようと地域の有志等とともに植栽を始めたところ、地元の長老から「山の中に半夏生が群生しているがあれは見たのか」との声を頂き、早速、現地を確認し、驚愕…なんと、山裾にむかし子供たちが学校に通った道があり、その下を小川が流れていました。そして放置された湿田に半夏生の大群生があったのです。木々に囲まれた散策道、滝に流れ落ちる蛇行した小川、湿田に繁茂する半夏生、このコントラストは絶景です。人間が作ろうと思って出来るものではなく、正に自然が作り出した楽園がありました。

この半夏生を皆さんに見て頂きたいと1年かけて準備を進めこの7月から8月まで公開されています。（ハンゲショウはドクダミ科の多年生で、湿地に生えるとされ夏至から11日目の半夏生の頃になると開花し、上部の葉の半分が白色に変わる。）

■灯りをともして10年「森ほたる」

遠州森町の夏の風物詩「森ほたる」が今年も8月6日（土）～15日（月）の10日間行われる。

「森ほたる」と呼ばれる行灯を軒先などに並べ、エアコンを消して外に出て夏の夜を楽しもうと2007年から始められ、今年で10年を数え、多くの町の人たちや住民有志により支えられ続けられている。

今年は、13日に「もりもりまーけっと」を中央通り商店街で開催するほか、期間中約50組のミュージシャンなどが町内各所で街頭ライブなどを開催、「みんなで森ほたる」を楽しむ企画が予定されている。

最終日には、恒例の「森町納涼花火大会」が太田川河川敷で開催され、森町の夏が彩られる。

■農村の文化と歴史を辿る遠州大念仏『蝉しぐれの盆』

遠州大念仏「蝉しぐれの盆」が、8月14日（日）、午後5時半から、磐田市敷地の豊岡東交流センター駐車場で行われます。遠州大念仏は、三方ヶ原合戦における徳川、武田両軍の戦死者を弔うための念仏踊りに由来している。静岡県西部地区を中心に、約70組が遠州大念仏保存会に所属している。今回は磐田市の敷上区子供念仏、壱貫地組、合代島組、大平組が出演します。榊原幸雄メダカが実行委員として参加しています。協力金は500円。問合せは磐田市豊岡東交流センター（0539・62・6669）へ。

『人・ひと・ヒト・だより』

●静岡市の池田恵一元メダカ。静岡朝日テ

レビ取締役を退任・今後は静岡朝日テレビカルチャーの代表取締役社長に、池田元メダカ、小児がんの子供と家族を応援する活動二十年。劇団の脚本も書くし、演出もする。「メダカの学校二五周年、開校１００回」の時には『おもしろめだかお笑い劇場公演』やろうか！茶髪から光ってるメダカまで役者は充分揃ってる。

●磐田市の大久保陽メダカ。７月７日付静岡新聞夕刊、静岡のオープンガーデン『庭ある記』にご夫妻で掲載されている。広さ６６０㎡の庭に25種類２８０株のアジサイが連なる。終盤の７月は、白い花が特徴の「アナベル」がお迎え。奥さんと二人三脚で35年かけて…と。めだかの学校にあっては『厨房の研ぎ師』美味しい給食もこのような裏技があったればこそ。

●新城市の星野直樹メダカ。環境と健康に優しい開発商品が『物づくり博２０１６in東三河』で愛知環境ビジネスに認定される。総合企画したイベント「こだわり市」も大盛況。７月30・31日の「奥三河食彩フェスしたら」に出店。頑張ってま～すと

●浜松市の奥宮教生メダカ。６月３日から５日まで三重県松阪市で開催された「第14回全国まちづくり交流会in松阪」に４日から参加。分科会「文化」で、地域で活躍するパネラーが、「限界集落」を『玄開集落』と銘打って頑張っている　との発表に、「集落」は部落のイメージに重なって暗い。『玄開衆楽』としたらどうか、と提言。大きな拍手。なんと三重新聞夕刊に、大見出しで掲載される。さすが第92回めだかの校長。やりますなア。

●長野県天龍村の関京子メダカ。地域の戸数、住民も減って限界集落もいいところ。地域に遺る伝統の祭り文化を守るためにも主人と頑張っている、と。次回の三遠南信サミットは来年の２月に飯田市で開催の予定。静岡、長野、愛知三県の「住民セッション」でパネラーに依頼されている。「限界集落」ならぬ「玄開衆楽」提言の奥宮教生メダカの応援を待っているかも。生徒の諸君も応援に。

●松阪市の坂梨律子メダカ。サントリー文化財団・アスティオン編集委員会が春と秋の年２回発行する、鋭く感じ、柔らかく考える「アスティオン２０１６・０８４号」に、「地域は舞台　あいの会松阪」―の取材記事の中で大きく取り上げられている。手織りと染めの作家である坂梨メダカ、実家の納屋を創作活動の作業場にし、染めの材料の藍は植栽して百姓もしている。全国まちづくり交流会で寄った「松阪もめんセンター」を再訪しましたと、バラメダカ。

●藤枝市の横山浩史メダカ。藤枝市本町から藤枝市水守へ住所が変わりました。元気ですと。桐タンスはもちろんだが、桐材を使ってのアイデアの小物商品、静岡駅の駿府楽市の店頭にも並んでいる。「宝くじ券入れ箱」も。日本左右衛門の墓がある磐田市見付の見性寺の住職曰く、「墓石を削って財布に入れておくと大当たりする。外れなし！」だって、やってみたら…。「宝くじの場合は連番で10枚以上買うこと」とは影の声。いや～。まさに。

●静岡市清水区の花井孝メダカ。「めだかの学校」93回の先生。心うきうき楽しみにしている。内容はまちおこし、地域活性化の仕掛けづくりとコツ、そして楽しみなど、体験を通した話をしようかな～と。掛川市の鈴木武史メダカの師匠でもあります。ハイ。

●浜松市北区の石野省三メダカ。都田川上流域の鮎の友釣りを活性化させようと地元漁協と組んで、初心者対象の友釣り体験を実施。漁協関係者をインストラクターに付け、一対一のマンツーマン指導で確実な技を伝授。インストラクター役もメンツに関わるため熱中度一二〇％に。参加者は11名の定員、お断りした皆さんには申し訳ない。北区・中区・浜北区・遠くは兵庫県からおいでいただき、女性も３名参加。釣果は３匹～７匹と初心者にしては上出来だよ。昼食は塩焼きにかぶりつきながらの反省。来年もお願いしますだって。日本の川文化「友釣り」を伝承しようではありませんか。

《新入生紹介》

●浜松市の池田悦子メダカ。92回から入校。浜松市南区立野町で『茶々』というサロン風の店を開いている。手作り品、洋服などがあり、一服のコーヒーコーナーも。おしゃべりおばさんたちの居場所となっている。営業時間は半日。興味のある方は０５３・４２５・３０００へ。

●磐田市の小山展弘メダカ。衆議院議員。磐田市の歴史に関心があり、磐田市も全国小京都サミットに参加したり、徳川家康と磐田との関わりについても、浜松、静岡、岡崎に加えて磐田も家康公の街づくりの流れに参加しても良いのではないか、と熱っぽく語る。メダカの学校だよりや、メダカ生の活動や話を聞くにつけ、興味を持ち、93回めだかの学校より入校。

×××　　×××

もっともっと伝えたいのですが、紙面の都合で今回はこれまで

《めだか春秋》

阿智村が集落ごとに調査した「人口推計結果報告」が注目されています。

それによると、最も中心から遠い清内路地区で人口が伸びる。２０１５年に５９３名であったものが２０４５年には８２０名、２０６０年には１３９１人という予測が示されました。それも最も信頼の高い島根県中山間地研究センターの人口推計（コーホート変化率法）によるものです。村全体は減少するのにこの寒村が増加するのです。２月21日に「この夢のような人口シュミレーションから清内路を考える茶話会」が開かれました。地元公民館主事の桜井祐介さんが独自の視点で解析を試みたが答えは「同じ」。不思議です。

このＶ字谷の集落で桜井さんは可能性をいろいろと分析しました。その答えは①この５年間で60人の人口が減ったのに20代～30代は９人の増。②周辺町村と比較しても頑張っている。③全人口の15・９％がＩＵターン者。④このＩＵターンの皆さんの子どもさんの力で保育園や小学校が維持されています。⑤平成22年から27年までの年齢別人口の増加率では、何と０歳～39歳の増加傾向が見られます。⑥２０４０年からは間違いなく二次曲線で増加します。これらはＵＩターンの皆さんが一緒に参加できる活動が多い。たくさんの話し合いの場がある。保育園や振興室（村の支所）の存在が考えられます。もちろん課題もありますが10年、20年後を見据えていると、今回の人口推計が丸っきり夢物語でないことが確認されました。

お茶を飲みながら３時間の茶話会では話は尽きません。でも５９１名の人口の中で24名が集まって熱心に語り合うことはムラの４％の人が集ったことになります。

10万都市のあなた、４％＝４０００人の市民に本気で論議の場を提供することが出来るでしょうか…小さな自治の本質は皆が主役になって地域を考えることが出来る、この事実です。

※飯田市の高橋寛治さんからの寄稿文です。92回のめだかの学校に送って頂いたのですが、掲載できず。今号となりました。

トピックス

■めだかの給食はいつも『旬』

めだかの学校の給食は『いつも旬』でございます。前回の第92回の6月3日は、掛川市横須賀の「武ちゃん農園」のジャガイモ、森町のとうもろこし「甘々娘」、初ものの「スイカ」、お茶は森町の智加ちゃんの「2番茶」9月の第93回は森町の「究極のこしひかり」、ごはんの味と香りを添えるのは、地元産ではないが「マツタケ」、そう「マツタケご飯」、デザートは「お月見だんご」。第94回の12月は、「英ちゃん農園」のえび芋と深ねぎとさつま芋。お米は引佐町久留女木の「棚田米」。棚田米はジャンケンでお土産つき…と言った具合。もちろん食材はこれだけはありませんよ。

これらを調理するのは渡辺三ツ子メダカをチーフとした給食係。渡辺メダカは市場にも入れるので旬のものが仕入れられる。もちろん献立も。給食係は午後3時ごろから集まって毎回60食をつくる。給食係が遅れ気味の時は、早く来た生徒を厨房に送り込む。のぞけば良く分かる。バラバラで適当にやっているようだが能動的に動いている。ウロウロしてツマミ食いばかりしている生徒もいるが、ツマミ食いが味を左右することがあるから面白い。そうツマミ食いができることが給食係の特権なのである。そしてパックに形良く詰められ。給食の時間に提供される。

めだかの学校の給食は、『めだかの学校を支える両輪』なのである。24年前の第1回から延々と続けられている。

生徒のみなさん、年4回のうち1回は給食係をやってみたら…。めだかの学校の楽しさと面白さが倍増するかも知れません。

■事務局だより

残暑お見舞い申し上げます

この暑さにはまいってしまいます。と言いつつ、静岡県立浜北森林公園を時間があるときは午前中歩いています。いろいろコースがありますが、日影のコースを選んで歩きます。気分がいいですヨ。ミンミン、チチチッと蝉や鳥が応援してくれます。多くの人との出会いも…

さて、第92回めだかの学校は、平成28年6月3日(金)、校長奥宮教生、教頭山中幸子、用務員村田徳治、今回のテーマは《自分の足もと、歴史を考える》。給食の準備が20分ほど遅れたこともあって開校時間が遅れたが、進行役の山中教頭、元バスガイドだけあって、なんのその名調子。奥宮校長も「熟年ということばは大嫌いだ。熟したあとは落ちるだけだぜ、老後ってのはいいねえ、何歳になっても後がある」(奥宮語録494)…聞けば「目から鱗」「膝を打つこと間違いなし」と、こちらもまさに絶好調。絶口調コンビに村田用務員、鐘を鳴らすのも遅れ気味。

授業は1時間目美術「三縁何進って何?」上嶋裕志先生。三遠南信地域にある伝統芸能や姫街道検定など、切り絵をデザインに取り入れた活動を語る。2時間目社会「縁から演へ…?」藤田久枝先生、1年前の演台で校長先生だった故藤田潤吉メダカとのご縁やチンドン演奏などを思い出し、涙ぐむも気を取り直して落語でみんなを笑わせる。3時間目は歴史「めだかの便りが教えてくれるもの」間渕亮太先生。数年の通年テーマと、毎回のテーマの資料を配って語る。仕事と育児とミニバスケット女子監督をしているので多忙とも。

私語飲食全て禁止の『次回三役発表』。次回は24年目の最初の開校日のため、校長はベテランの水村春江、教頭には入校は浅いが真面目で前向きな髙田正人。二人を支える用務員は校長も経験のあるベテランの中村明男。期初93回開校楽しみです。

三役について事務局から、従来『握手して引継ぐ』ことを重要視して出席者の中から決めるようにしていたのですが、今後は先生と同じように出席者以外からも選出することにしました。24期第2回の「めだかの学校」は12月。第94回めだかの学校の校長はあなたかも知れません。

第93回めだかの学校の職員会議を6月24日(金)19時から学舎で開く。第93回めだかの学校は平成28年9月2日(金)、水村校長、髙田教頭、中村用務員の三役と、事務職員ら15名で開く。いつも如く、ああでないこうでもない、と色々な意見が出たが、骨格だけ決めて、24期の通年テーマは『素朴とも見えるひとつひとつの行動が未来へと広がっていく』に決める。第93回は24期最初の学校のため、授業は期初特別授業1時限60分、今回のテーマも《地域に生きて、地域に生かされる》ってことから、社会「地域にあって地域を生かす花井流まちおこし」花井孝先生に決まる。地域活性化の仕掛けづくりのコツや楽しみ方など、多くの体験談などを聞けると思います。ご期待乞う!です。

■第24期の受け付けを始めてます

第24期は、平成28年9月1日から、平成29年8月31日までです。毎年度継続手続きが必要です。6月3日の「第92回めだかの学校」の開校日より受付を始めています。締切りは8月31日、7月15日から現在59名の生徒が済ませました。未手続きの生徒には、再度申込書を同封しますが、必ず手続きを済ませないと名簿からはずれ自主退学となりますのでご注意ください。新しく入校をされる方がいましたら事務局までご連絡ください。申込書と資料を送ります。

■今回もめだかの学校だより遅れてごめんなさい

いつもお手伝い頂いてます鈴木武史メダカ、伊藤英雄メダカ、石野省三メダカ、村松達雄メダカ、田村進治メダカ、間渕亮太メダカ、発送などのお手伝い榊原明美さん、ありがと!。

■めだかの学校だよりの原稿を!

次回の発行は、11月1日予定。締切りは、10月20日。みなさんの日頃の活動、イベントの開催など、あなたの顔の見える情報をどんどん、手紙でFAXで電話で…待ってます。メールの方は、《mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp》間渕亮太090・5009・0986です。

(メールの方は割付の関係もあるのでご一報を。)

■めだかの学校の事務局

〒438・0105静岡県磐田市家田529番地20　榊原幸雄方　TEL 0539・62・6691(FAX同じ)

※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮3150。電話 0538・89・7730　開校日の午後4時以降のみ使用可。

携帯 080・1612・9130